

| 留学費用 | | | |
|-------------|--|-----------|---|
| 留学費用項目 | 現地通貨 (ドル) | 日本円 | 備考 |
| 授業料 | 6,694.16 | 円 | サービス料金:179.16 |
| 宿舍費 | 5,548.76 | 円 | サービス料金:153.76 |
| 食費 | 1,000 | 円 | |
| 図書費 | 40 | 円 | |
| 学用品費 | | 円 | |
| 携帯・インターネット費 | 100 | 円 | |
| 現地交通費 | | 円 | (<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車) |
| 教養娯楽費 | | 円 | |
| 被服費 | | 円 | |
| 医療費 | | 円 | |
| 保険費 | | 45,000 円 | 形態: |
| 渡航旅費 | | 132,720 円 | 往路:54,136 円(予約日:2023 年3月13日) 復路:78,584 円(予約日:2023 年5月15) |
| ビザ申請費 | | 80,000 円 | |
| 雑費 | 1000 | 円 | |
| その他 | 4000 | 円 | 旅行(6 か所) |
| その他 | | 円 | |
| 合計 | 18,382.92ドル (2023 年 8 月の為替レ ートで:2,686,857 円) | 138,270 円 | 総額:2,825,127 円 |

渡航関連

| 渡航経路 | |
|--|---|
| 往路 出発地:成田 空港 目的地:サンノゼ 空港 経由地: | |
| 復路 出発地:サンノゼ 空港 目的地:成田 空港 経由地: | |
| 渡航費用 | |
| ① 往復チケットを購入した場合 航空会社:ZIP AIR 料金:132,720 円 | |
| ② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:ZIP AIR 料金:54,136 円 復路 航空会社:ZIP AIR 料金:78,584 円 | ∴合計:132,720 円 |
| 航空券購入方法 | |
| <input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:) | |
| <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:https://www.zipair.net/) | |
| <input type="checkbox"/> その他() | |
| 滞在形態関連 | |
| 1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など) | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:International House) | <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ |
| 2)部屋の形態 | |
| <input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数:一人) | |
| 3)共有部分 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可) | |
| 4)住居を探した方法: | |
| 学校からのメール International House の申し込みリンク: https://ihb.starrezhousing.com/StarRezPortalX/316FC1E7/1/1/Home-Home?UrlToken=814A4432 | |
| 5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス) | |
| International house は、8 階の建物になっており、1 階には受付とグレートホールという広いホールとランドリールームがあります。2 階にはダイニングホール(食堂)と図書館があります。3 階から 8 階まではドミトリーになっており、3 階～6 階は学部生が 7 階は主に大学院生やリサーチインターンの学生たち、8階にはサマーキャンプでパークレーに訪問している学生のための階になっていました。 | |
| International house は、現地の学生(パークレーに通っている正規学生?)だと60Units(30単位)以上とらないと入れないそうです。なので International house に住んでいる学生はほぼ2年生以上のほうが大半を占めています。 | |
| そして、私は、International house をお勧めします。なぜなら、ダイニングホールで様々な国からパークレーに来ている人脈を作ることができたからです。日本の食堂とは違ってテーブルに座っていると「一緒に座っていい?」と話しかけてられる場合が多く、そこでスモールトークしながら、仲良くなる機会が多くありました。 | |

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例: 現地の病院、学内の診療所)

- なし
 あり (治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。
(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

- なし
 あり (問題の内容や相談した人等: 現地の先生)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？ その際どのように対処しましたか？

UC Berkeley WarnMe というメールから学校の周辺で事件が起きた場合にメールが来ます。メールの中にどのような事件が起きたのか、どこで事件が起きたのか、犯人の人相や着衣が詳細に書いていますので、事件が起きた場所には近寄らないようにしました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮で WIFI を接続して使いました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか？ (例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

クレジットカードを使用しました。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

去年の UC バークレー校のレポートには書いてなかったのですが、サマーセッションズと言い、バークレーのサマーは日本みたいな夏じゃないです。特にバークレーはサンフランシスコにとっても近いですが、サンフランシスコは風が強く、7月でも涼しいところでした。平均的に朝8時くらいに学校に行くときに13~16度で昼間でも20~23度くらいです。☆必ず暖かい洋服を持って行ってください！！！！

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

クレジットカードで支払いました。授業料は2月8日、寮費は4月19日に支払いました。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

| | |
|---|--|
| 1)留学先で取得した単位数合計 | 本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。 |
| 10単位 | <input type="checkbox"/> 単位 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:大学院生はサマーセッションズで単位が取れないため) |
| 2)履修登録の時期・方法及び履修制限 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった: | |
| 3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。 | |
| 履修した授業科目名(留学先大学言語): | 履修した授業科目名(日本語): |
| UGBA 192S Business and Sustainability | ビジネスとサステナビリティ |
| 科目設置学部・研究科 | 経営学部 |
| 履修期間 | SessionA |
| 単位数 | |
| 本学での単位認定状況 | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) |
| 授業形態 | 講義形式(チュートリアル、講義形式等) |
| 授業時間数 | 1週間に150分が2回 |
| 担当教授 | |
| 授業内容 | サステナビリティ経営について学べる授業。一回テスラ工場へ見学に行き、持続可能なビジネスについて身に着けることができる。このコースは、講義、読書、ビジネスケース、企業による講演を織り交ぜながら、理論、フレームワーク、ツール、ビジネスケースを用いて、財務的リターンを維持または最大化するサステナビリティ戦略を体系的に評価し、実行する方法を学べる。学生は、環境的・社会的課題からビジネス価値を創造する機会を特定し、持続可能性への取り組みに関連する競争上の意味を評価することを身に着けることができる。そして、持続可能な開発戦略と健全な財務慣行を同時に促進するために、組織はどのような長期戦略を設定できるのか？意思決定者は、これら2つの組織目標の間でどのようにトレードオフを行うべきか？「持続可能性」はどのような場合に「良いビジネス」となるのか？ |
| 試験・課題など | チーム発表一回 期末テスト |
| 感想を自由記入 | 毎回少人数のグループを作ってディスカッションを行うことで英語で論理的に話すことの大切さを学びました。この授業の先生はメキシコ出身の先生、そしてクラスメイトも留学生や在米の学生が多かったので、ダイバーシティな環境で学ぶことができました。 |

| | | | |
|---|--|-----------------|--|
| 履修した授業科目名(留学先大学言語): | | 履修した授業科目名(日本語): | |
| UGBA 196SA Business models for the Sustainability | | 持続可能なビジネスモデル | |
| 科目設置学部・研究科 | | | |
| 履修期間 | SessionA | | |
| 単位数 | 3 Units | | |
| 本学での単位認定状況 | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) | | |
| 授業形態 | 講義形式(チュートリアル、講義形式等) | | |
| 授業時間数 | 1週間に360分が1回 | | |
| 担当教授 | | | |
| 授業内容 | このコースは、主にイノベーションとアントレプレナーシップというレンズを通して、環境と社会の持続可能性という困難な問題を楽観的に捉え、持続可能性という社会的・環境的問題に取り組む上で、新たなビジネスの創造がいかに決定的な役割を果たしうるかをマッピングするものである。コースのバランスとしては、イノベーションとアントレプレナーシップの基礎知識(コースの最初の20%)から始まり、サステナビリティ・アントレプレナーシップ(コースの80%)の核となるトピックへと進む。 | | |
| 試験・課題など | 毎週レポート、または課題 期末レポート | | |
| 感想を自由記入 | 持続可能なビジネスモデルについて学べますが、それよりも環境破壊や気候変動について学べます。先生はNASA出身の科学者なので、とても詳しく学ぶことは可能ですが。科学に関する知識があまりない私としてはパークレーでとった授業で一番難しい授業でした。 授業中に自由に発言できますし、質問すると先生からとても詳しくフィードバックをもらえます。 | | |

| | | | |
|--|--|-----------------|--|
| 履修した授業科目名(留学先大学言語): | | 履修した授業科目名(日本語): | |
| Beginning Piano Class 1 for Non-Music Majors | | ピギナーピアノクラス | |
| 科目設置学部・研究科 | | | |
| 履修期間 | SessionB | | |
| 単位数 | 1Unit | | |
| 本学での単位認定状況 | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) | | |
| 授業形態 | 講義形式(チュートリアル、講義形式等) | | |
| 授業時間数 | 1週間に120分が1回 | | |
| 担当教授 | Jacqueline Chew | | |
| 授業内容 | ピアノを専攻にしていない学生のためのピアノ授業。和音と音階が音楽の中でどのように組み合わせられているのかを理解しながらピアノを弾くことを学ぶ。譜読み(リズムと音程の読み方)から始まり、メジャー・コード、マイナー・コード、メジャー・スケールとその調号を学びます。簡単なクラシック曲や、和音を加えたメロディーを演奏できるようになる。 | | |
| 試験・課題など | 毎週ピアノに関する簡単なテストや課題あり | | |
| 感想を自由記入 | 高校の時にジャズピアノを学んだことがあるため、楽譜を読んでピアノを弾けるのは難しくなかったです。ほかの授業は競争が激しい(?)というかみんな熱心に取り組んでいますが、この授業はみんな1Unit 足りなくて授業を受ける人も多いようで、みんなで楽しみながら授業を受けることができました。 ちなみに、この授業で親友ができたり、経営学部以外の専攻をしている学生との交流がたくさんあったため、とても楽しい授業でした。 | | |

| | | | |
|---|--|-----------------|--|
| 履修した授業科目名(留学先大学言語): | | 履修した授業科目名(日本語): | |
| UGBA 178 Introduction to international Business | | 国際ビジネス初級 | |
| 科目設置学部・研究科 | HAAS | | |
| 履修期間 | SessionC | | |
| 単位数 | 3Unit | | |
| 本学での単位認定状況 | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) | | |
| 授業形態 | 講義形式(チュートリアル、講義形式等) | | |
| 授業時間数 | 1週間に150分が3回 | | |
| 担当教授 | | | |
| 授業内容 | 海外でビジネスを行う上での環境的、経済的、政治的、社会的な制約、海外事業投資が国内外の経済に及ぼす影響、海外市場の分析と企業の経営戦略、国際事業の経営上の問題と発展の可能性などに関する調査などをおこなう。 | | |
| 試験・課題など | 中間レポート 期末レポート | | |
| 感想を自由記入 | 国際ビジネスをアメリカの視点から学べるという点が明治大学の国際ビジネス授業とは違う点だと思いました。また、先生はとてもフレンドリーでパークレーで25年以上教えているベテラン先生です。世界各地の留学生や現地のパークレー生とグループになってディスカッショントピックを決めて発表する機会が2回設けられています。ディスカッショントピックは、最近ニュースに出ている記事の中で自分がみんなで話し合えることができます。私のグループは2回目のディスカッションでツイッターの名前が X に変わるというニュース記事を紹介した後、ブランド名を変えることは今後ブランドイメージにどのような影響を与えるかについてディスカッショントピックを挙げました。 | | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 履修した授業科目名(留学先大学言語): | 履修した授業科目名(日本語): |
| COLWRIT 7L ESL Berkeley Experience | バークレー・エクスペリエンス |
| 科目設置学部・研究科 | |
| 履修期間 | SessionE |
| 単位数 | 1 Unit |
| 本学での単位認定状況 | 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) |
| 授業形態 | 講義形式(チュートリアル、講義形式等) |
| 授業時間数 | 1週間に150分が6回 |
| 担当教授 | |
| 授業内容 | <p>「バークレー・エクスペリエンス」では、タイトル通りにバークレー周辺の博物館や美術館、観光地などに行くことで、ダイバーシティ・インクルージョンについて学べる授業です。この授業では、「障がい者」、「尊重し合うことの大切さ」、「移民・難民の歴史や問題」などについて学ぶことができます。まず、「障がい者」に関しては、物理的なバリアによってできないことをできるようにする環境づくりの大切さを学びました。UCバークレー校のキャンパス内の施設において、どのようなバリアフリーへの取り組みがなされているのかを調べる活動を行ったことがあります。トイレやエレベーターの階など、いくつかのサインは目の不自由な人のために点字に転写されていました。また、どの建物でも、車椅子に乗っている人が自動でドアを開けるためのボタンや車椅子の人専用の緊急時に身を守るシェルターも設置されていました。それに比べ、私の大学には車椅子の人が自動でドアを開けるためのボタンがないことに気づきました。さらに、日本では毎年多くの地震が起きているにもかかわらず、障害者専用の避難所はないことに気づきました。今後、障害者への配慮が必要な他の国にも広がっていけばいいと思いました。「尊重し合うことの大切さ」については、人にはそれぞれの個性や価値観があり、その考えや思いを尊重する必要があることについて学びました。博物館で同じ作品を鑑賞したあと、感じたことについて一言で表しました。みんなは、それぞれ「衝撃的」「奇妙」「考えさせられる」「面白い」という意見が出ました。私たちは同じ作品や彫刻を見たにもかかわらず、その見方や捉え方は人それぞれだったということは、人は様々な経験や文化を持っているため、個性やアイデンティティ、価値観によって見方が異なること、そして、相手の考えや思いを尊重することは、この世界で生きていく上でとても大切なことであることを学びました。「移民・難民の歴史や問題」について学べる授業で一番興味深かったのは、コーヒーカンパニーを運営している共同創設者と難民にインタビューを行ったことです。まず、ビジネスの観点から見ると、工場やレストランを作った方が、経営しながら利益を上げることができると考えられるのに、どうしてコーヒーかという質問に対して、共同創設者はその理由をいくつか挙げていました。1 つ目の理由は、カフェで働くことで 難民の多くは英語が流暢ではないので、お客さんと英語でコミュニケーションをとることができ、英語力を高めることができる点です。そして 2 つ目の理由は、難民の多くは社会人経験が少ないが、バ리스タなら訓練ができるし、教えることもできる点です。最後に、アメリカ政府は難民に 1000ドルしか支給しないため、長期滞在を始めた人々には十分ではないという点で、米国で仕事を見つけることは、彼らが米国に滞在するために非常に重要なことになるといえます。</p> |
| 試験・課題など | 毎週リアベあり |
| 感想を自由記入 | バークレーの文化や周りの環境について知り多い！という人におすすめしたい授業です。この授業の先生はバークレー出身の人で、バークレー周辺の博物館や美術館の訪問、難民インタビュー、フェリーツアーなどを通じてバークレー周辺の文化や UC バークレー大学の文化について学ぶことができます。 |

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:大学院(PhD)の進学のため帰国予定

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

未定

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

私の夢は大学の教員になることです。その夢を叶えるために大学院(PhD)の進学の準備をするために、母国へ帰国し、大学院の進学に必要な勉強を始めることにしました。
留学希望者に向けたアドバイスとしては、「留学に行く前にアカデミック英語の勉強を身に着けること」です。アメリカへ行く場合には、TOEFL、イギリス留学を希望している人にはIELTSの勉強をすることが現地で授業を受ける際に役立つと思います。TOEFLとIELTSの勉強は、とりえずアカデミック英語単語をたくさん覚えること、そして TED Talk など聞き、普段から学術英語に触れ合う機会を増やしていくことが大事だと思います。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例:語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

| | | |
|----------|---------|--------------------------------|
| 留学開始年の前年 | 1月～3月 | 大学院の入試:研究計画書、大学院の面接など |
| | 4月～7月 | 大学院入学、修士論文の発表など |
| | 8月～9月 | 留学費用の貯金 |
| | 10月～12月 | トップユニバーシティ留学の申請 |
| 留学開始年 | 1月～3月 | UCBの履修登録、予防接種、ビザ申請 |
| | 4月～7月 | 4月:大学院の修論などフィードバック、5～7月:留学スタート |
| | 8月～9月 | 修士論文の仕上げ |
| | 10月～12月 | 修士論文の提出 |
| 留学/帰国年 | 1月～3月 | UCBの履修登録、予防接種、ビザ申請 |
| | 4月～7月 | 4月:大学院の修論などフィードバック、5～7月:留学スタート |
| | 8月～9月 | 修士論文の仕上げ |
| | 10月～12月 | 修士論文の提出 |

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

留学先として UC バークレーを選んだ理由は、Youtube で LA 旅行の動画を観て、機会があればカルフォルニア州で学びたい、旅行したいと思ったためです。大学院生としてトップユニバーシティ留学できる学校は限られており、カルフォルニア州であれば UC バークレー大学とスタンフォード大学が唯一でしたので、UC バークレー大学を選びました。

私は留学生で、現在留学生向けの財団奨学金を受給しているため、日本から90日以上離れない規制や、他奨学金(トップユニバーシティ留学奨励助成金A)の併給には助成上限額があること、留学費用、奨学財団への連絡、修士論文の仕上げなどいろいろなことが係るため、本当に留学に行ってもいいのかすごく迷いました。

そして、留学に行ってきた結果、UC バークレー大学での学びは私の人生の「ターニングポイント」になったと思います。UC バークレー大学では、寮生活したら、20 カ国以上の人々と異文化コミュニケーションをする機会が多く、トップスクールで学んでいる学生の話聞くことは私の人生に刺激を与えてくれました。現地の UC バークレー大学の学生は毎日8時間以上勉強している他、自分の将来の目標について、そして論理的思考力の大切さを教えてくれました。また、彼らとの交流することで、「私も彼らといつか一緒に働きたい」、「私も彼らのようににはきはきして、自分の人生に真剣に取り組むことができる人になりたい」と思うきっかけになりました。

また、文系の場合、授業でディスカッションする場合がありますが、ディスカッションの時、クラスメイトや先生と話し合うことで、色々な考えを持つ人々を尊重し合うことの大切さや論理的に話すこと、相手に腑に落ちるような発言をすることの大切さなどについて学びました。

私は日本以外の国で留学したことがないため、日本人、中国人、韓国人以外にほかの国の人と交流する機会は少なかったと思います。今回アメリカの大学で留学した経験は、ダイバーシティな環境であるからこそ、様々な考えが生まれ、違うバックグラウンドを持つ人々とコミュニケーションすることで、自分にも色々な学びがあることを学びました。

留学を考えている人の中で①異文化交流がしたい②世界のトップの大学で学びたい③英語を伸ばしたい④海外で人脈を作りたい⑤外資系企業を目指したいと考えている人がいましたら、ぜひ留学を検討してほしいです。ダイバーシティな環境であるからこそ異文化交流ができますし、世界のトップで学んでいる学生たちは皆さんに刺激に与えてくれますし、毎日英語で会話を楽しむことで英語を伸ばしながら、人脈を作ることができます。最後に、就職活動中に「留学経験がありますか?」と聞かれたり、海外経験を履歴書に書いたりすることもできます。

Good Luck !